



第570号

2021年1月4日

発行:自治労連千葉県本部
千葉市中央区長洲1-10-8 自治体福祉センター内
TEL 043-227-9393 FAX 043-227-6060
URL http://www.jichiroenchiba.jp/
責任者・竹内 敏昭 編集長・實川 理

旭市飯岡(いとおか)漁港に昇る朝日 (旭市提供)



旭市

東日本大震災から10年

災害復興の先へ

東日本大震災から10回目の春がやってきます。千葉県内でも旭市は津波で大きな被害を受けました。旭市を訪問し自治体職員の思いを職員組合の皆さんにお聞きしました。

最大波は2時間後に来た

三陸沖を震源とするマグニチュード9の地震発生から1時間後、旭市の沿岸部に津波が防波堤を乗り越えて押し寄せました。黒い濁流は船や車、家々を押し流しました。

第2波は堤防を越えなかったため、住民の中には安心して帰宅する方もいました。ところが地震から2時間半後の17時20分過ぎに最大の第3波が押し寄せ

たのです。15の方が犠牲となりました。

住民のためにやるしかない

当時、建設課に在籍していた職員組合委員長の石毛さんは、初めて現場を見て「自分の想像を絶する光景に、呆然としてしまった。



石毛さん

何から手を付けて良いのかわからなかった」と当時を振り返ります。

避難者は一時2800人を超え、1か月後でも350人程が避難所生活を送っていました。

保健師や看護師は交代で24時間避難所に常駐し健康管理を行いました。他の職員は避難者一人ひとりの状況に合わせ生活支援を行いました。

仮設住宅の整備などスピードが求められる業務が多く、約3か月は全職員が過酷な環境で勤務しました。「それでも、やるしかない状況だった」と石毛さんは言います。



林さん

津波は来るという意識の継承が大事
元職員組合委員長の



旭市防災資料館の展示



①津波来襲を伝える平松の浅間神社の石碑 ②津波避難タワー ③500人が避難できる日の出山公園の築山

道の駅 季楽里あさひ



↑道の駅 あさひパイ焼き→

国内トップクラスの農水産物の恵み

旭市は、県内一の農業産出額を誇り、国内トップクラスの農水畜産物に恵まれています。「道の駅 季楽里あさひ」では食の郷あさひの魅力が堪能することが出来ます。

記者イチオシは高品質な豚肉です。モツ鍋セットに旭の野菜をたたくかき揚げを合わせた「あさひの郷」を実施しています。



山中商店の「雷鳥」

岩手県大槌町職員組合

阿部 委員長

住宅整備完了 道路建設あと少し

最初に、東日本大震災における皆さんからの多大なる物的及び人的支援をいただきまして被災自治体を代表して御礼申し上げます。

当町の震災被害からの復興状況について

震災二モマケズ コロナ禍二モマケズ

等々の社会減が進み、人口減少に歯止めがかからない状況となっております。

活気ある町を目指し 尽力したい

三陸鉄道の開通等による交流人口の増加に期待しております。昨年の台風19号の被害による連航停止、今年3月の開通したも



←被災後の市街

現在の市街

旭市では、住民の議論の結果、復興にあたり高台移転はしないという選択をしました。堤防の強化やピルの外階段の整備、津波避難タワーや築山などのハード面の整備とともに、実践的な訓練を年2回定期的に実施し、防災資料館で記録を収集・展示し津波を語り継ぐことで、防災・減災の意識を高める取り組みをしています。

「10年が経ち記憶の風化を感じることもあり



建設中の新庁舎

市役所新庁舎 オープン

今年4月には、旭市役所の新庁舎がオープンします。旭市は、災害復興から次のステップへ着実に進んでいます。(県本部)